

9月に向けて

代表取締役 三田雅憲

残暑が厳しく、仕事がまだまだ大変ですが、各自体調管理をしっかりと、9月も乗り切っていきましょう。

さて、今月から3回にわたって、大リーグで活躍する大谷翔平選手が実践していることで有名になった「自立型人材を育成する為の原田メソッド」を一緒に勉強したいと思います。

現在のように変化の早い時代に生き残れるのは、自ら考え、決め、行動し、責任を取れる人々であり組織であります。この変化に強い組織(会社)を作るのは、自立型の人々です。そして、この自立型人材を育成するのが、私が考案した「原田メソッド」です。大谷翔平選手も「原田メソッド」に関して書いたこともあり、有名になったので、聞いたことがある人もいかもしれませんが、企業の社長や社員に「原田メソッド」を紹介すると「大谷選手だから成果が出たのでしょうか？」と言う方も多くおられますが、そんなことはありません。

中学校の先生をしていた私(原田)は、35歳の時に、校内でケンカや非行に走る生徒が多い、荒れた学校に赴任しました。私は「この荒れた生徒たちが、社会に出た時に活躍できる人に育てたい。」と強く思いました。しかし、彼らに「何か挑戦していこう。」と声をかけても、返ってくる言葉は決まって「できるわけではない。」「無理。」といった後ろ向きの言葉ばかりでした。そこで、私自身も体験していた「何かを成し遂げる素晴らしさを体感したら変化するのでは。」と考え、彼らに目標を持たせることにしました。ただ「目標を持とう!」と呼び掛けるのではなく、生徒たちが目標を持ち、達成に向けてやるべきことを継続する仕組みづくりに、奮闘する日々が始まりました。私が顧問をしていた陸上部の生徒に、この「原田メソッド」を使った指導を開始すると、最初は話を聞かない、書き忘れるという状態が続きましたが、私も毎日赤ペンで彼らが目標必達の為に記入してきた内容に返事を書き続けました。すると、徐々に生徒たちに変化が起り、目標達成に向けての行動を次々と考え、行動する自主性を持ち始めました。その結果、陸上部は7年間で13回も日本一を取るという結果を残しました。

ここまでの話でお分りの通り、ユニクロや大谷さんも実施している「原田メソッド」で最初に成果を出したのは、荒れた中学校の陸上部の生徒たちだった訳です。ここで私は「成功は技術である」と声を大にしてお伝えしたい。技術ということは、つまりそれを学び実施すれば必ず誰にでもできるということです。

ここからは「原田メソッド」の具体的な内容を解説していきます。最初のステップは「目標設定用紙」の作成です。ここでは、私が数年前に3カ月間指導したA君の用紙を例に見てみます。「手順1 奉仕活動で心を育てる。」自立型人間に何よりも大切なのが、「きれいな心」と「強い心」です。目標達成には、上司や同僚、部下などの周囲の協力が欠かせません。この協力を得られるのは、心がきれいな人。目標を達成し続ける人は、皆さん決まって真面目で素直で、一生懸命、そして常にポジティブです。又、毎日コツコツと行動を積み上げる強い心が必要です。この2つを育てる為に毎日実践するのが奉仕活動で、これに取り組めば、必ず心がきれいになります。奉仕活動を毎日継続するのは簡単ではありません。だからこそ、毎日実践することで心が強くなるのです。表1(来月号に掲載)の①奉仕活動に、家庭と職場、それぞれで毎日実践する奉仕活動を記入します。

(来月に続く)

今月の、「原田メソッド」はここまでです。来月以降には、手順2から手順9の紹介と目標設定用紙を掲載します。ただ、この方法は平石先生のアクションプランに通じるものがありますので、「原田メソッド」を理解して、よりアクションプランに生かしていただいても構いません。いずれにせよ、仕事にゴールと目標設定をして進めていける自立型人材になっていってください。